地歴公民（世界史）　東京大学　（前期）　1/3

＜全体分析＞

試験時間　２科目で150分

解答形式

（第１問）論述式　（第２問）論述式　（第３問）記述式

分量･難易（前年比較）

分量（減少･やや減少・変化なし･やや増加・増加）

難易（易化･やや易化・変化なし･やや難化・難化）

第１問は20行となり，昨年度の22行から２行減少して例年みられた20行へと戻った。３つの史料を読み取らせる形式は，2000年度以来のことである。第２問は４行論述が復活し，４行が１問，３行が２問，２行が３問となった。昨年度に続き，短答記述の形式はみられない。昨年度と異なり地図が扱われなくなったが，そのかわりにスエズ運河の図版を読み取らせる出題がなされた。総行数は一昨年度の12行，昨年度の11行に対して，16行へ増加した。第１問と第２問の合計では計３行増加したことになるが，分量としてはほぼ変化なしといえるだろう。第３問はこれまで通り設問10問。一昨年度の解答数である12個，昨年度の11個に対して，解答数は10個。また，昨年度に引き続き１行論述は出題されなかった。

出題の特徴

第１問は15世紀頃から19世紀末までの時期における伝統的な国際秩序とその変容を扱った問題である。史料を本格的に扱った出題は近年見られなかったもので，新しい傾向といえる。指定語句は例年８つだったが，今年度は６つとなった。ただし，３つの史料番号を挙げて論じることが求められているため，実質的には９つの指定語句があると考えることもできるだろう。第２問は問(1)で騎馬遊牧民，近現代のモンゴルとチベット，問(2)でスエズ運河，白豪主義，問(3)で合衆国戦間期のマイノリティ排斥，アメリカ=メキシコ戦争が問われた。一昨年度の第３問は図版・地図・資料を用いた出題で，解答に従来より時間を要したが，今年度は昨年度と同様にシンプルな出題形式が踏襲された。

その他トピックス（入試改革の方向性を踏まえた目新しい出題など）

第１問が20行（600字）に戻った。また，３つの史料を踏まえて解答することが求められた。第２問では昨年度のミクロネシアに続き，オセアニア史としてオーストラリアの白豪主義が問われた。第３問については，文化史の学習をできていたかが結果を分けただろう。

ズバリ的中が第１問，第２問，第３問ともみられた。第１問の「冊封体制とその変容」のうち，高３の「東大世界史」Ⅱ期第４講で，15世紀から19世紀のベトナムの動向を国外勢力との関連で論じさせる問題を扱った。第２問では，アメリカ=メキシコ戦争の問題が，「東大本番プレテスト」第２問のオリジナル問題とほぼ同一であった。第３問では，問(2)の墨家が直前講習の「東大世界史テスト」第１講第３問のオリジナル問題で出題され，問(6)のトンブクトゥも，「東大世界史テスト」第２講第３問のオリジナル問題で出題された。しかしながら，合格点に達するためには，日々の真摯な学習が何より重要なことは言うまでもない。

また，「東大本番プレテスト」第１問では，オーストラリアと南アフリカの歴史を出題した。このなかで，流刑植民地から始まったオーストラリアが，牧羊業の発展や金鉱発見を背景に自由移民を増加させる一方，先住民であるアボリジニーを迫害したり，中国系移民などの排斥を進めたりする白豪主義が強化されていったことについて扱っている。また，第３問(6)の問題文では，清代になっても引き続き朝鮮が明の元号を用いていたことが示されており，第１問の解答作成に有益な視点を提示したことだろう。

© 河合塾　2020年

地歴公民（世界史）　東京大学　（前期）　2/3

＜大問分析＞

番号	出題形式	出題分野･テーマ	コメント(設問内容･答案作成上のポイントなど)	難易度
第１問	論述	冊封体制とその変容	「東アジアの伝統的な国際関係」，すなわち冊封体制のあり方と，近代におけるその変容が題意となる。「朝鮮とベトナムの事例を中心に」とあるので，両国をメインに論じるが，史料Ｃ（万国津梁の鐘）や「薩摩」という指定語句から，中継貿易で栄えた琉球王国についても朝貢・冊封と関連付けて論じる。「近代におけるその変容」とあるが，それ以前の時期に国際秩序が全く変容しなかったわけではない。15 世紀頃には中国との関係が，周辺諸国にとって国内支配の強化や経済基盤の強化に役立っていたが，明清交替期やそれ以降，形式的には中国皇帝の権威を尊重しつつも実際には史料Ａでみられるような「小中華」思想が台頭することや，朝貢貿易が 16 世紀に一時動揺したことも意識したい。近代では，単に諸条約を列挙するのではなく，アヘン戦争以降に「条約」を締結すること自体が，主権国家体制に組み込まれていくことであることを示したい。史料Ｂは同時期の日朝修好条規を踏まえつつ，その後の清仏戦争・天津条約と関連させて扱い，日清戦争・下関条約とあわせ，清が両地域の宗主権を失い冊封体制が崩壊したことが結論となる。朝鮮については，その後の大韓帝国まで述べても良い。	やや難
第２問	論述	民族の対立や共存	問(1)(a)「前３世紀末」から（前）漢の成立期を想起できれば良い。秦の遠征を受けたことを指摘することも可能。(b)辛亥革命の前後のうち「前」を解答するのが難しいが，高校教科書の一部には記載がみられる。問(2)(a)図版をスエズ運河と判断することは容易だろう。(b)白豪主義の形成過程が問われている。字数が厳しい問題であり，先住民（アボリジニー）の排斥や 1901 年の移民法を示すこともできる。問(3)(a)「移民や黒人に対する排斥運動」が問われている。サッコ・ヴァンゼッティ事件という個々の事件も一応示したが，ＫＫＫの指摘があれば良いだろう。「それに関わる政策」も求められているので，1924 年の移民法は必須。(b)アメリカ=メキシコ戦争と分かれば容易。「経緯」なので影響は不要。	標準
第３問	記述	思想とその影響	問(4)は「神秘主義を理論化」「スンナ派の神学体系の中に位置づける」などからガザーリーと判断する。ニザーム=アルムルクなどと混同しないこと。問(9)は主著『人口論』からマルサスと判断する。リカードと混同しないこと。	標準

※難易度は５段階「易･やや易･標準･やや難･難」で，当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

© 河合塾　2020 年

地歴公民（世界史）　東京大学　（前期）　3/3

＜学習対策＞

第１問は，題意を踏まえていかに歴史的な文章を構成できるかが問われるので，論述力を日々研鑽することが大事となる。第２問は基本的な問題が中心だが，要点を的確に指摘できるように内容の理解を深めておかないと高得点は望めない。第３問は平易だが，第１問・第２問との時間配分にも留意しなければならない。基本知識をしっかり習得したうえで，第１問の大論述だけでなく，第２問の短い論述に対しても十分な準備・対策が必要である。年度ごとに出題形式・字数など若干の違いはみられるが，本質的な学力を求められている点では変わらない。時間軸・空間軸にそって大局的に歴史をとらえることを心がけよう。

© 河合塾　2020 年